人のために人と共に生きる“光り輝く華”に

晃華学園中学校

〒182-8550　東京都調布市佐須町5-28-1　☎(042)482-8952　FAX(042)483-1731
ホームページ　https://jhs.kokagakuen.ac.jp/
校　長　西山 恵子

女子校

共同宣言を共に作成した、マラウイからのビデオメッセージに見入る晃華生

傾聴力と共感力を持つ女性へ

晃華学園では、教育理念の実践目標の一つとして「Noblesse Oblige」（神さまから与えられたタレントを磨き高め、他者のために生きることに喜びを見出す）を掲げています。変化の激しいグローバル社会において優劣や勝敗を競うのではなく、置かれた環境の中で自分らしく振る舞い、他の人々へも慈しみのまなざしを向けられるたくましさとしなやかさを持った女性、価値観の異なる人々と協働し共に新しい時代を切り拓いていく女性を育成します。

主体的、対話的な学びをはぐくむ

本校はユネスコスクールにも加盟するミッションスクールです。2016年から3年連続で、「全日本高校模擬国連大会」に出場し、他校の生徒たちと英語でねばり強く交渉を重ね、ひとつの決議案を生み出す体験をしています。世界情勢に目を向け、自分の意見を説得力を持って伝え、相手の立場になって考えることなど、生徒たちは多くを学び、ますます意欲的に活動しています。この「学びの輪」は校内にも広がり、中3の授業で行われる「校内模擬国連」でも活発な議論が展開されています。さらに、2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な世界の実現へ向けて採択された開発目標）に目を向け、身近な生活の中で実践できる取り組みについて考えるプロジェクトが活発に行われています。

校内模擬国連、国連カフェのメニューを決定。

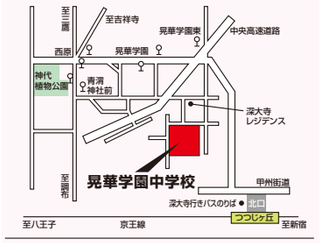
キリスト教精神に基づく全人教育

対外的な活躍を支えるのが、日々の授業の積み重ねであり、各教科とも時代の変化や個々の生徒に合わせたきめ細やかな工夫を凝らしています。広い視野に立って物事を判断するためには、トータルな学力、盤石の基礎力が不可欠であり、教科ごとの指導に加えて、学習計画や振り返りを促し、徐々に自立した学習者となるよう支援しています。学年の約5割が理系進学を希望し、医療系（医学部医学科、看護、薬学、獣医など）への進学者が多いのも本校の特長です。命に対する畏敬の念や、他者のために奉仕する姿勢は、在学中に育まれるキリスト教的な精神の表れとも言えるでしょう。

晃華学園は「第2の家庭」

豊かな自然に囲まれ、あたたかい雰囲気の中で充実した6年間をすごした生徒たちにとって、晃華学園は「第2の家庭」とも言える心の故郷です。女性のライフコースの中で、就職や結婚、出産など、様々な節目を迎えた時、相談や報告に母校を訪れる彼女たち。愛情を持って育てられた彼女たちは、またどこか別の場所で、他者へ愛情を注ぐ人になっていくでしょう。

与えられた使命を自覚し 進んで責任を果たす



・京王線「国領」駅よりスクールバス 約10分
・JR中央線「武蔵境」駅よりスクールバス 約25分
・京王線「つつじヶ丘」駅よりバス7分、徒歩5分
・JR中央線・総武線「三鷹」駅よりバス20分、徒歩5分

学校を訪問してみよう！

オンライン個別相談会
9月12日(土) 14:00～

学校説明会
9月26日(土) 13:45～
11月14日(土) 13:45～

6年生対象入試説明会
10月31日(土)
9:30～ / 13:30～

学校見学会
12月17日(木)14:00～
1月9日(土)10:00～

※上記イベントへの参加はすべてインターネットによる予約制です。
イベントが変更・中止となる場合もあるため、必ず学校HPで事前にご確認下さい。

募集要項（2021年度）

	第1回	第2回	第3回
試験日	2/1(月)午前	2/1(月)午後	2/3(水)午前
募集人員	約50名	約35名	約25名
出願期間(Web出願)	1/10(日)～1/31(日)12:00	1/10(日)～1/31(日)12:00	1/10(日)～2/3(水)0:00
試験科目	国語・算数 社会・理科	2科(国・算)	国語・算数 社会・理科
合格発表(HP)	2/1(月)	2/1(月)	2/3(水)

※詳細は本校HPや募集要項(9月以降配布予定)をご覧ください。

特別企画

安田教育研究所

安田 理先生の学校探訪!

校長 西山 恵子

今、どこの学校を訪れても、その多くでSDGsに取り組んでいることが語られる。そうした中、晃華学園はどこよりも早くから取り組んできた。今回は、「最貧国」と言われるマラウイ共和国のマタピラ小学校とSDGsに関する共同宣言を作成した昨年のプロジェクトを中心にお届けしよう。活動のレポート、動画、生徒さんとのやり取り……その随所に、晃華学園らしさを感じる。

晃華学園のSDGs活動は生徒発

SDGsという言葉はよく目にされていると思う。2015年に国連で採択された2030年までの国際目標で、持続可能な世界を実現するための17のゴールが設定されている。

その翌年2016年、晃華は早くもSDGs活動をスタートさせている。全日本高校模擬国連大会に出場した生徒が、「SDGsこそ晃華の精神」と考え、提案したのである。そもそも晃華学園はカトリック校として“NOBLESSE OBLIGE”（「すべて多く与えられた者は、多く求められ、多く任された者は、さらに多く要求される」ルカによる福音書）を大切にしている。

また、ユネスコスクール（平和や国際的な連携を実践する世界的な学校のネットワーク）として難民救済などの活動もしていたので、まさに生徒が感じたようにSDGsは晃華生が取り組むのにピッタリな活動なのである。

昨年、今年と何人かの晃華生と接しているが、どの生徒からも「人の役に立ちたい」という思いを感じる。こんな学校はあまりないので、いつも嬉しくなってしまう。

そうした土壌があるので晃華学園では、自らを「SDGirls」と呼ぶ生徒たちが主体となり、LHR、昼休み、放課後を使って日常的にSDGsの活動に取り組んでいるのだ。

マラウイからの手紙を読み込む生徒たち

なんでアフリカの小学校と?

そうした中、2019年4月から10月にかけて大きなプロジェクトが行われた。晃華の中3生とマタピラ小の6年生とで「SDGsに関する共同宣言」を出そうというものである。

そもそもマラウイ共和国を知っている人はまずいないのではないだろうか。「最貧国」と言われるアフリカ南部の小国だ。「なんでこの国と?」と尋ねると、社会科の松元賢次郎先生が答えてくれた。

「青年海外協力隊員としてマラウイで教員アドバイザーをしている友人から、マタピラ小学校が日本の学校との交流を望んでいると聞き、異なる環境の子どもたちと共にSDGsに取り組めれば、国際課題を『自分事』にできると思ったのです。」

活動はすべてマラウイ委員中心に行われた

活動はすべて、各クラスからマラウイ委員に立候補した生徒中心に行われた。

最初にマタピラ小学校から手紙が届いたのが5月18日。学校に通えず労働を強いられる子がいるなど、様々な社会課題が記されていた。いかんせん手紙では伝わる情報量も乏しい。もっと知りたいという生徒の要望で青年海外協力隊員とテレビ電話でやり取りすることに。が、時差が7時間ある。朝早くに20人が集まり、30分限定で交流した。

テレビ電話を終えた委員は、自分たちとテレビ電話を見ていない生徒の間には大きな情報格差があることに気づく。みんなにもわかってもらうにはどうしたらいいか。スライドを作成し、穴埋めプリントを用意した上でプレゼンをした。

各クラスでの共同宣言の作成が始まる中、マタピラ小の児童と直接話し合いたいという声が出た。テレビ電話だ!今度は放課後に生徒たちが集まった。

マタピラ小学校の6年は1クラス80人!ぎっしり詰まっている教室に机はなく、皆、土の床に座っていた。テレビ電話が始まると晃華生は、誰からともなく机を片付けだし、同じように皆、床に座った。普段からお互いの立場を大切にしている彼女たちらしいふるまいだった。テレビ電話の本来の目的は、SDGs共同宣言作成に関する情報交換のはずであったが、いつしか子どもたちは画面越しに互いの名前を呼び合い、そのたびに歓声が沸いた。「友だち同士」になった瞬間だった。

A組、B組、C組、D組それぞれから全く異なる視点の案が出てきた。委員たちは、それぞれの良さを生かしながら、またマタピラ小の案と比べて修正しながら、共同宣言をまとめ上げた。

共同宣言は7月20日、中高マリアンホールで委員の代表者により中3生全員の前で読み上げられた。

代表者はどこの部分に各クラスとマタピラ小の想いが込められているか話すとともに、「この共同宣言は晃華学園の中学3年生とマタピラ小学校6年生全員が作ったものです。そして宣言を作って終わりではなく、実現のために行動をしていくことが重要です」と語った。

二人のマラウイ委員

今年7月、マラウイ委員だったK.Hさん、M.Mさんに話を聞いた。

「なぜ委員になったの?」「先輩方がSDGsに積極的なのを見て、自分も挑戦してみようと思ったからです」「この活動を通じて、何が分かった?」「テレビ電話をしたマラウイの子どもたちは、明るかった。貧困国であっても、心は豊かなのだと感じた。世界、社会から貧困をなくす活動をしていきたいです」

「生徒たちは、学び合いながら蓄積してきた力を、今回の取り組みで発揮し、さらに自信をつけたようです。」と学年主任の安藤真由美先生。晃華にはこうした生徒が大勢いる。晃華からは間違いなく世界の課題を解決するために活動する人が生まれるに違いない。

黒板を使いながら意見をまとめ、共同宣言を作成していく